

# 第30回全日本少年サッカー大会決勝大会レポート

安部 雄大



## 1、概要

日程：8月5日(土)～8月12日(土)

会場：Jヴィレッジ(6～9日)、西が丘サッカー場(11、12日)

20分ハーフ：11人制

## 2、試合結果

### 予選リーグ

8月6日(日)

第1試合目/第10ピッチ

10:30～ vs 岐阜JFC(岐阜) 1-0(0-0、1-0)  
得点者/重本祐紀(後半11分)

第2試合目/第5ピッチ

14:30～ vs ヴェルディ(東京) 0-0(0-0、0-0)

8月7日(月)

第3試合目/第7ピッチ

15:30～ vs 山形JFC(山形) 1-0(1-0、0-0)  
得点者/長原(前半1分)

8月8日(火)

第4試合目/第1ピッチ

9:30～ vs 紫雲JFC(香川) 0-0(0-0、0-0)

第5試合目/第7ピッチ

15:30～ vs バレイア(熊本) 1-0(1-0、0-0)  
得点者/阪本(前半13分)

### 決勝トーナメント

8月9日(水)

ラウンド16/第7ピッチ

9:30～ vs 横浜F・マリノスプライマリー追浜(神奈川)  
0-1(0-1、1-0)  
失点/前半6分

### 3、試合について

#### (1) 岐阜 JFC 戦 (グループリーグ)

- ・初めての全国大会初戦。  
前半立ち上がりは緊張からか、慎重になりすぎて DF ラインも深く、全体的に消極的なプレーが目立った。  
ハーフタイムに失敗をおそれず積極的に自分達から仕掛けようと送り出すと後半は徐々に自分達のリズムを取り戻す。  
田淵、笠原が幾度となくサイドから突破を試み、そこから得た左コーナーキックを重本が頭で合わせ先制。  
得点後はより落ち着きを取り戻したが、追加点は奪えず試合終了。  
想定はしていたが、全国大会での初戦の難しさを感じたゲームであった。

#### (2) ヴェルディ戦 (グループリーグ)

- ・優勝最有力候補と言われているヴェルディとの対戦。  
1 試合目では紫雲 (香川) に 6 - 0 の快勝で力の違いを見せ付け、我々とのゲームとなった。  
ゲーム前に相手がどこであろうと自分達のやる事は変わらない事を全員で確認し、前向きな気持ちで良い雰囲気ゲームに入った。  
立ち上がりこそ自分達のリズムでボールも人も動いていたが時間が経つにつれ、やはり個々のポテンシャルの差が歴然と見えはじめた。  
特にボールを扱う**技術** (右左遜色なく精度の高いボールが蹴れる・ファーストタッチ)、**スピード** (身体能力、判断、プレス) **強さ** (攻守においての 1 対 1、球際) など、この年代ではパーフェクトに近いパフォーマンスだった。  
その相手に対して我々は複数でボールを奪いに行き相手以上に走り、ゴール前で体を張った最後の粘りを見せ得点こそ許さなかった。(特に GK 中、DF 長原 阪本は自分の今現在の最大限の力を発揮していた)  
ただ、我々も人数をかけて守りきろうという気持ちを持ったわけではなく、最後まで積極的に攻める気持ちを持って取り組んだが、シュートを 2 本打つのが精一杯だった。自分達の力を出し切った上で感じた数々の『差』。  
この現状はしっかりと受け止め、今後少しでもこの『差』を縮められるよう努めていきたい。(ヴェルディ / シュート 2 3 本)

#### (3) 山形 JFC 戦 (グループリーグ)

- ・この日は 1 日 1 試合、しかも午後からという事で午前中は休息にあてた。  
試合に向けて体も心もリフレッシュして望む事が出来た。  
立ち上がりゲームの入り方が良く、試合開始 4 0 秒で得た CK から、長原のヘディングシュートが相手に当たってコースが変わりオウンゴールにて先制。  
ただその後更に得点を奪いに行こうという積極的な姿勢が見られず、逆に相手にセカンドボールを拾われる場面が増え後手をふむことになった。  
また中盤で判断の遅さから相手にプレスをかけられ、カウンターを受けるなどボールの失い方が良くなかった。  
その後一進一退の攻防が続くが、DF 陣がなんとか踏ん張り 2 勝目をあげることが出来た。

#### (4) 紫雲戦 (グループリーグ)

- ・全チームが確実に勝ち点を奪っている相手に対して、終始優位に試合を進めるが結局最後まで得点を奪う事が出来なかった。  
この試合で明らかに感じたことは、個々での突破や得点を奪う力が足りない。チャンスは多く作り出しフィニッシュまでは行くが、最後のゴール前での冷静さやアイデアが乏しい。またGKの正面をつくシュートも多すぎた。  
やはりもっともっと個々のレベルアップを図らないとならないと感じた。

#### (5) バレイア戦 (グループリーグ)

- ・この試合に勝つか引き分けで決勝トーナメント進出が決まるゲームだったが、引き分け狙いではなく積極的に攻撃する事を選手には求めた。  
しかしこの試合でも判断の遅さが特に目立った。ボールが来る前に次の展開が描けてなく、ボールを受けてから次のプレーを考えている場面が多かった為プレスの早い相手に何度もボールを奪われる。そういう状況なので、ダイレクトプレーなどもほとんど見られなかった。  
また守備に関してはドリブルで仕掛けてくる相手に対して1対1の守備の弱さも露呈した。ただこの大会攻守にわたって安定したプレーをしている長原を中心にDFラインが決定的な突破を許さなかった。  
得点はサイド攻撃から得たCKを長原がヘディングで合わせ、GKがはじいたところを同じくDFからあがっていた阪本が押し込んだ。

神戸市、兵庫県予選からこの試合まで合計16試合無失点で予選リーグ突破をする事が出来たが、得点力不足は明らかだった。結局この予選5試合でも3点しか取れずしかもすべてCKからという前線の選手にとってはさみしい結果となった。

**予選リーグ2位通過 3勝2分け 勝ち点11 得点3 失点0**

#### (6) 横浜F・マリノスプライマリー追浜戦 (決勝トーナメント)

- ・ゲーム前選手にはとにかく失敗を恐れず、結果を気にせず、思い切って自分達が今までやってきた事を信じて自分の力を出し切ろうと送り出した。  
立ち上がりはお互い慎重で落ち着いたゲームで進むかと思われたが、簡単にCKを与えてしまい失点。神戸市予選から続いた無失点記録は17でストップ。  
その後も相手の巧みな技術、個人戦術の下、攻め込まれる時間が続く。  
試合終了間際こそゴール前にボールも人も入っていくが、結局効果的なシュートを打たせてもらえず終了した。  
この試合でも判断の早さ、判断の伴った技術の差がまだまだ大きい事を感じた。  
またマリノスというブランドに萎縮したのか、自分達の全ての力を出し切る事も出来ず、全国を知らない経験のなさとメンタリティの弱さをのぞかせる試合となった。

## 4、オフザピッチについて

### (1) 食事

- ・出された物を残すことなくこの暑さでもたくさんの量をバランス良く取れていた。日頃の遠征から常に『食べる』事の大切さを子供達には伝えていたので、このような舞台に来て食べる事の心配はなかった。

### (2) 睡眠

- ・大会期間中は毎日8時間の睡眠時間は確保した。実際は早めに寝てそれ以上取っていた選手もいたと思うが、それ以下の(消灯時間を守れない)選手はいなかった。

### (3) その他

- ・食事の準備～片付け、洗濯や毎日必要なタンクやボトルやクーラーBOXも子供達で洗い、次の日の氷や飲み物の準備も全て子供達が自主的に行った。それと宿舎では、食堂のボードに大まかなスケジュールだけを書き、子供達はそれを見ながら時間を逆算して、準備をする時間や役割を自分達で考え行動していた。これもこの1年半、『自分の事は自分で考えてやる』という事を言い続けてきた成果がみられた。

## 5、成果と課題

### (1) 成果

守備面に関して、戦う姿勢が随所に見られ、最後まであきらめないプレー、ギリギリのところでスライディングや体でゴールを守るプレーが見られ、集中力を切らさず戦い抜いたことは評価できると言える。攻撃に関しては、サイドからの突破を積極的にチャレンジしていた。ただコーナーキックを奪う事までは出来たが、最終的な目的の『ゴールを奪う』まではまだまだ課題を残すかたちとなった。またCKではチーム全ての得点をあげ、ゴールが生まれる可能性を多いに感じた。

### (2) 課題

良い準備からのオンザボールの技術・判断の早さ(プレーの選択)・コンタクトスキル、フィニッシュの場面が課題として挙げられる。ボールが来る前に、次の展開が描けてなくボールを受けてから次のプレーを考えている場面が多かった為プレスの早い相手に何度もボールを奪われた。このレベルになれば相手からプレッシャーをかけられる状況は当たり前で、寄せられる・コンタクトを受けるだけで慌ててしまい、それに気を取られ判断を失う場面も多く見られた。相手が来ても動じないボールを扱う技術、ボールの置き所や駆け引きなど今後もっと向上させていく必要がある。またフィニッシュに関しては、まずゴールに向かう、シュートを打つという意識が少なかった。打たせてもらえなかった試合も確かに多かったが、打てるチャンスを見逃している場面も多かった。本数を競うわけではないが、やはり打たないことにはゴールは奪えない。今大会は『狙う』という本質的な部分まで追求することが残念ながら出来ず、まずは『シュートを打つ』『打つチャンスを逃さない』というところからもう1度意識付けしていく必要があると感じた。

## 6、まとめ

大会終了後、選手達にはこれからがより大切な事を重々伝えた。  
まずこの大会で今現在の自分のレベルを知り、全国レベルを知り、今後自分がどうなりたいか、どうしていかなくてはならないかをしっかり考えてもらいたい。  
当然我々スタッフも今自分達が全国的にどのレベルにあるのかを把握し、なにが出来てなにが出来てないのか、どうしたら改善出来るかの方法を考え、全国との差を今後縮めていかなくてはならない。  
この大会を今後のジュニアチーム発展の為、全国レベルで戦える選手の育成の為にしっかりと整理し、プランを立ててまた全国レベルの相手に挑めるよう最大限の努力をしていきたい。  
私自身もっと良い選手を育てていきたい、もっと上のレベルを目指したいという思いにかきたてられました。  
本当に良い経験が出来た1週間でした。  
ジュニアチームに対して、たくさんの声援やたくさんの事に協力していただいた全ての方々にお礼申し上げます。  
ありがとうございました。

### 最終結果

優勝：横浜F・マリノスプライマリー  
準優勝：FC浦和  
3位：ヴェルディ  
横浜F・マリノスプライマリー追浜